幸若かわら版

幸若舞の里づくり会
事務局　橋本守行
電話090-7746-8689

第　１８　号
令和　元年　５月　１日

令和元年のスタートにあたって

澤﨑博
副会長

「平成」に代わる新しい元号は、「令和」に決定した。我々もこの機会に、新しいスタートを開始したいと考える。

平成十四年「朝日町幸若の会」が結成されたが、その後県下の伝統芸能継承に力を入れている宗生流剣仕舞の宗家により、平成二十二年に「幸若舞」が披露された。「現代幸若舞」といわれるこの舞は好評で各種イベントで演じられている。平成二十三年には、「歴女の会」を立ち上げ、幸若舞の連続講座が続けられている。

このような動きのなかで、西田中区長からも、きちんとした組織づくりの意向が示され、平成二十八年五月十五日、「幸若舞の里づくり会」が設立された。

会は専門部会を立ち上げ、幸若史跡案内板作成・幸若子ども教室・幸若かわら版発行を行ってきたが、活動を全国的に発信し魅力ある地域づくりを目的とする活動には、充分とは言えない状態である。

先日の会議で、橋本左内は宝泉寺幸若分家橋本家十五代で、肖像画の紋所は「七五の桐」で幸若家のつながりが判る。活動中の偽名は、桃井伊織と名乗っていた。越前町では余り知られていないが幸若舞の歴史では忘れてはならない事で「幸若舞のもつ貴重な文化の力を生かすには、西田中・宝泉寺を核に住民の理解と支えがないと成功しない」との助言があった。

「令和」の年は、「幸若舞」を住民に広く知ってもらうことが活動の柱となると思う。就職の時、「越前町は六〇〇年前武将や多くの人に共感を与えた幸若舞の発祥地です」といえるだけの歴史を「幸若舞」は持っている。

広報えちぜんの表紙の幸若舞を舞う子どもたちの真剣なまなざしに応える心を持ちながら新元号「令和」の活動の第一歩をスタートせねばならない。

第4回総会開催のご案内！

本会の第４回総会（令和元年度）を下記により開催します。

日　時　　<u>令和元年５月１２日（日）午前１０時～</u>
会　場　　越前町生涯学習センター２階会議室

＊岩開・大隆寺住職・木田慧明師のご講演があります。
演題「榎本敬次郎氏はなぜ大隆寺に帰依したか」

＊当日年会費　２、０００円の納入をお願いします。

幸若舞ＰＲ・ＤＶＤが完成

かねてから懸案であった幸若舞のＰＲ・ＤＶＤが朝日コミュニティ委員会のご協力を得て、平成三十年度事業としてこのほど完成しました。約十五分の短編で内容は次の通りです。

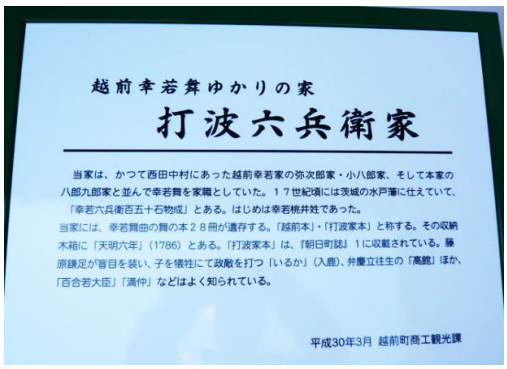
①朝日地区の概要②幸若舞のルーツ③幸若屋敷分布④ゆかりの史跡⑤大頭流幸若舞⑥現代版幸若舞その他

来る五月の本会総会で披露するとともに、本ＤＶＤはｅーとこ朝日のホームページの映像アーカイブのコーナーに掲載予定ですので、ぜひご覧ください。

朝日観音梵鐘の音の収録

幸若ゆかりの案内板設置

昨年度に引き続き、今年度も幸若ゆかりの場所に案内板が越前町商工観光課により設置されました。今回は西田中・打波邸および宝泉寺・実相寺の２ヵ所です。



平成30年度　顧問会議を開催

さる４月１２日午前１０時から、朝日コミュニティセンター会議室において、３０年度の顧問会議が開催されました。

当日は顧問として、山口先生、中嶋宗生流会長、打波夫人、孝久西田中区長の４名が、本会から辻会長ほか６名が参加しました。

本会議で出された主要な意見は次の通りです。

・幕末の志士・橋本左内は影がうすい。幸若の末裔であることも触れてもっとクローズアップすべきである。

・宝泉寺地区から会員を募るなど「宝泉寺幸若」にもっと関心を持つべきである。

・町内各地の神社には、幸若関係の絵馬がたくさんある。これらも整理記録すべきである。

・一乗谷朝倉氏遺跡は文化財史跡というよりは観光地である。幸若舞ももっと観光的なアプローチを検討すべきである。

・あしもとの町内の若い人たちにもっと浸透を図るべきである。

・その他

幸若佐々生墓地清掃実施

本年もさる四月十四日午前、幸若佐々生墓地の清掃を実施しました。

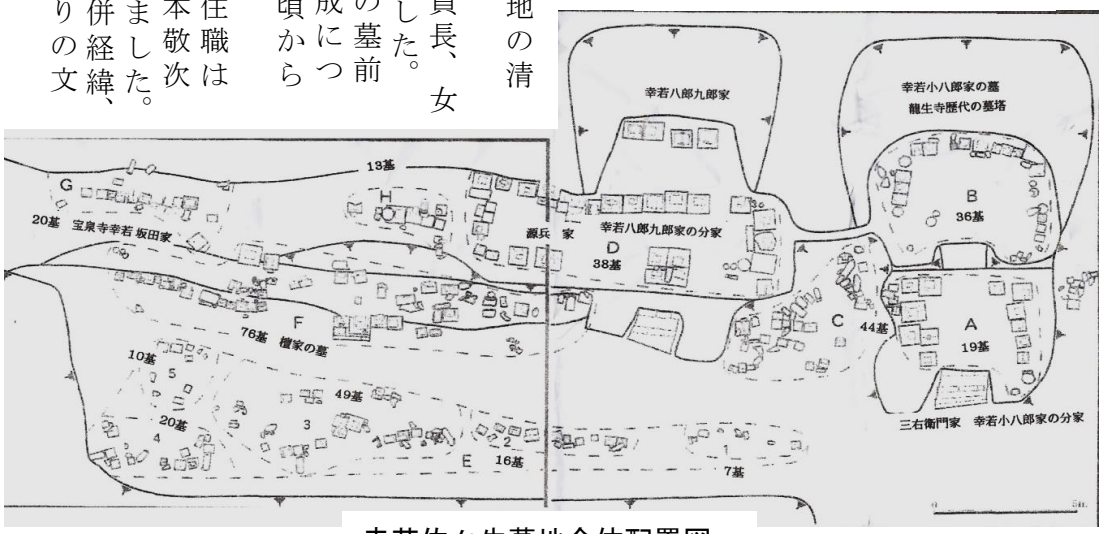
当日は、辻会長や山口顧問、寺坂町教育委員長、女性会員三名を含めをはじめ十二名が参加しました。

約一時間の清掃後、小八郎家墓に参拝、その墓前で山口顧問から「幸若佐々生墓地」の全体構成について説明を受けました。同墓地を引き上げる頃から小雨が降りだしました。

昼食は岩開・大隆寺で摂りました。同寺の住職は不在でしたが、山口顧問からは幸若末裔・榎本敬次郎を介した同寺と幸若との関係の説明がありました。

また用水紛争を契機とした岩永と開発の合併経緯、古くからの俳句結社を中心とした同地区ゆかりの文化人のお話もありました。

小八郎家墓碑参拝と説明



幸若佐々生墓地全体配置図

大隆寺
榎本敬次郎句碑

大隆寺本堂説明

大頭流幸若舞の伝承

越前幸若舞が幕末・明治初頭に途絶し、越前から派生、遠く九州に渡来した大頭流幸若舞が現在に伝えられ保存されていることは、つとに議論されています。先般、大江幸若舞保存会長が日経新聞に寄稿されましたので、転載します。

日本経済新聞　2019年（平成31年）1月15日（火曜日）

文化

信長ゆかりの舞 唯一継承

◇700年前発祥の幸若舞、福岡県みやま市大江で奉納上演◇

松尾正春

〈人間五十年　下天の内を比ぶれば　夢幻のごとくなり―。

◎◎◎

地区150世帯で守る

織田信長が桶狭間の戦いに出陣する前に舞ったとされる演目「敦盛」が有名な幸若舞。軍記物語に節を付けて謡う曲舞の一つだ。約700年前、現在の福井県で生まれたとされ、室町から江戸時代にかけて武士の間で愛好された。明治維新後には各地で姿を消してしまったが、私たちは福岡県みやま市瀬高町の大江地区で、全国でも唯一受け継いでいる。

地元の資料によると、幸若舞の名は創始者で南北朝時代の武将、桃井直信の幼名、幸若丸に由来する。大江地区に幸若舞が伝わったのは1787年。直信の父、直常を初代家元とする大頭流という一派だった。16世紀の終わりには筑後山下城の城主が京都から舞い手を招く。文武に秀でた家来によって発展し、大江の住人に伝わったという。

「大江のめえ」と呼ばれて、地元の人々が家元を継承し、各弟子たちが受け継いできた。現在は地区の約150世帯みなで伝統を守り続けている。大人の舞い手は現在10人。大頭流の舞曲は42の詞章が残っているが、いま上演しているのは9曲だ。毎年1月20日、大江天満神社の舞堂で五穀豊穣を祈って奉納上演している。

大江天満神社舞堂での奉納上演

私は1957年生まれ、大江で育ち、高校卒業後に関東で数年働いた後、旧瀬高町役場（現みやま市役所）に入った。子供の頃から幸若舞の存在は知っていたが、家族に舞い手はおらず、きちんと見たことはなかった。接点ができたのは役場に入って2年ほどしたころ。先輩にあたる保存会の前会長に声を掛けられたのがきっかけだった。

◎◎◎

「敦盛」3年かけ復曲

誘われて稽古に行き、詞章と節から習い始めた。先輩と差し向かい、口伝で教わる。詞章はテキストがあるが、節の楽譜などは存在しない。自分なりに節回しの特徴を書き込みながら学び、気づけばメンバーとして取り込まれていた。伝統を次代につないでいかないといけないという気持ちが芽生えていた。

82年1月に初舞台に立つ。舞い手は烏帽子に素袍という武士のいでたち。右手に中啓という扇を持って両手を左右に伸ばし、上半身を少しだけ前方に曲げて謡う。頭は ほとんど動かさない。この姿勢がなかなか辛く、最初のうちはすぐに腕が下がってきてしまう。力まず、腕の力を抜いて謡えるようになると不思議と疲れないようになった。

舞い手は3人が舞台に上がる。真ん中を大夫（上手をシテ、下手をワキと呼ぶ。大夫は足を前後左右に運んで舞台を踏みならしながら謡い、シテとワキが地謡を勤める。舞い手のほかに小鼓方が腰掛けの床几に座って登場。舞台には桐、菊と下がり藤の紋を染め抜いた幕を張るのが習わしだ。

現在上演している9曲は、私が初舞台で謡った「扇の的（那須与一）」のほか、「日本記」「浜出」「安宅」など。上演時間は15～35分程度だ。源平合戦に由来する「敦盛」は2008年に保存会で復曲上演した。詞章はあるが節は分からなかったので、既存のレパートリー8曲をもとに、詞章の意味と節の表現を分析しながら3年かけて復曲に取り組んだ。全体の一部を約30分かけて上演している。

◎◎◎

時代劇の指導依頼も

やはり「敦盛」は人気が高く、復曲してから東京や京都でも披露する機会があった。テレビなどの時代劇で信長が幸若舞を披露するシーンがあるから、節回しを教えてほしいという問い合わせを受けたこともある。期待に応えられるよう、曲を磨き上げていきたい。

幸若舞が大江だけで続いてきた理由として、一子相伝でなく地区全体で継承してきたことが挙げられると思う。国の重要無形文化財に指定された76年からは地元の小学生も加わり、現在は小学5、6年生数人が毎年舞台に立っている。1月の公演に向けて11月の終わりから平日には毎晩、大江天満神社の舞堂に集まって稽古にいそしむ。

私は昨春に役所を定年退職したが、その前の昨年1月の公演後に第三十一代の家元に就いた。10人いる大人の舞い手は私が最年長で、下は30代。今は大丈夫だが、後継者の確保はいずれ課題となってくるだろう。そのためにも子供たちへの指導に力を入れ、地域の伝統を守っていきたい。（まつお・まさはる＝大江幸若舞保存会会長）

大頭流幸若舞

第76，77回幸若講座開催

第７６、７７回の幸若講座がそれぞれ、３月２２日、４月２６日に町図書館会議室において行われました。いずれも「越前幸若舞を知る１００項」をテキストとして、その２７項、２８項がその内容となり、幸若家系図と「舞の本」奥書などが話題となりました。なお２面記事にある幸若舞ＰＲ-ＤＶＤの試作版の試写会も行われ、意見が出されました。

当面の予定

５月１１日　語り部の会例会
５月１２日　第４回総会
５月２４日　第７８回幸若講座
５月２６日　健康ウォーク
　　午前９時～